

D 9 住宅の工業化のためのモジュール構成の向題点 その1 台所設備の場合
阪市大生活科学 松岡貴世子 上林博雄

目的：本報告では、主に台所設備のモジュール構成の向題点に的をしぼって、台所設備の寸法構成の規格をモジュール的見地から比較検討するものである。

方法：ISO 3055 "Kitchen equipment coordination size" 及び DS 1043 "Køkkenkomponenter" 及び、JIS A 0017 "システムキッチン構成材のモジュール呼び寸法" を主体として、さらに、JIS S 1005 "家庭用炊事用具" を参考として、台所設備のモジュール規格の比較を行う。なお、JIS S 1004 "家庭用炊事用具の寸法" 及び JIS S 1006 "木製炊事用具" も参考としなが、現在では廃止になっている。

結果：ISO (International organization for standard) は国連の関係機関で国際的に、単位の向題等を扱っており、その委員会 TC (Technical Construction) により寸法的な規格が規定され、その台所設備の規格も世界的に通用するものであるが、その中で、ISO 3055 の寸法の呼び名及び構成は、工業化に即応したものと考えられるが、DS (Danish standard) と比較すると幾分融通性があり、工業化の限界の範囲を考慮したものと思われる。また DS は ISO と規格の構成は同じであるが、寸法、呼び名において表現の仕方が異なり、寸法の構成が、単純である。この ISO を参考として作られたものが、JIS A 0017 であるが、ここで規定しようとしている台所設備は、ISO と同じものを部分的に採用しているにもかかわらず、商業的に和製英語 "システムキッチン" を採用している。ここに従来の規定に加えて新しい規定をつくり、今後の台所の構成を固定的に提案していることは、実状から考えると向題があるように判断される。